

「のだ」の拡張的使用 -自己防衛の柔らかな言語表現化「のかなと思います」-

鈴木智美

東京外国語大学国際日本学研究院

tmsuzuki@tufs.ac.jp

1. はじめに：自己防衛の言語表現

人と人がコミュニケーションする時、日本語においては、相手との関係性や状況にどのように配慮した言語行動が行われるのか。対人関係や場面に留意した言語行動については、近年、いわゆる「敬語」表現のみならず、より広く「配慮言語行動」というとらえ方がなされ、研究が行われるようになってきている（三宅(2011)等）。では、そのような「配慮」は、対人関係においてはすべて対話の「相手」に対する配慮として行われるのだろうか。

情報通信手段の発達した現代社会において、例えばマスメディアを通じた発言は、好むと好まざるとに関わらず、不特定多数の「見えない相手」に対して行うことを余儀なくされる。情報はインターネットを通じて瞬時のうちに拡散し、一介の市民の発言であっても、何らかの理由によって集中的な批判にさらされるという事態に巻き込まれる可能性もある。このような現代情報社会の特徴は、その一角に参画する者であれば誰もが承知しておかざるを得ないものとなっているのではないだろうか。

このような中で、近年、観察されるようになったいくつかの言語表現には、「相手への配慮」というより、むしろ不特定多数の相手に対して不用意な発言を行うことを避け、反感や批判を招くなどのトラブルが生じる可能性を回避するというように、「自分を守る」意図で使用されるようになってきているのではないかと考えられるものがある（鈴木(2012, 2015)）。

2. 意見表明や感想・コメントに用いられる「かなと思う」

そのような表現の1つとして、鈴木（2015）では、話題となっている事柄について専門家あるいは関係者が行うコメントや、街頭インタビュー等を含む種々のインタビューへの人々の回答において、自身の見解や意見、あるいは感想や願望を述べる際に、「かなと思います」という形式が使用されるようになってきていることが指摘されている。自分自身の見解や感想を述べるにもかかわらず、「かな」という疑念を表出する独話的な表現を用いることにこの構文の特徴が見られる。このような形式をとると、「と思う」によって提示された引用節内部の内容は、あくまで個人的な思考結果を提示するのみとなり、その思考内容を相手と共有しようとする表現とはならないと考えられる¹⁾。これは、自身の発言をあくまで自

身の内的な思考結果の提示にすぎないものとしてとどめ、その見解について相手と判断を共有することを避け、不要な対立・摩擦をあらかじめ回避するという、1つの「自己防衛」の表現ではないかと考えられる。例えば、以下のような例が見られる。

(1) <観光名所の海岸の砂浜に雑草がはびこり、景観を損なっている。10年前の補強工事が原因ではないかとされることについて>：自治体職員（男性・40代）

「(10年前の補強が)ダイレクトに原因になっているのはちょっとないかなと思っています。」(2014年7月29日「スーパーニュース」フジテレビ) (鈴木(2015)(14))

ウェブ検索を行うと、「-たい」による自身の希望・願望の表明や、「うれしい」「悲しい」などの感情を表す表現にも「かなと思う」が付加した例が観察される。鈴木(2015)でも同様の例が示されているが、このような場合、自分自身の希望・願望や感情・思いに対し自分自身で疑念を呈するというように、自家撞着しかねない表現形式がとられることになる。

(2) <健康・美容サロンのブログ記事タイトル>

「日々の疲れがとれない方にススメたいかなと思います」(2016年5月21日)
(<http://corps-chou.com/fasting/>)

(3) <運転免許取得のための合宿式自動車学校の口コミサイト>

「又別の免許を取得しに来たいかなと思います」(閲覧日：2016年7月2日)
(<https://drem.jp/kuchikomis/496>)

(4) <オリジナル絵本作成販売サイトの「お客様の声」で、購入者からのコメント>

「簡単に作成できるのに、オリジナルの内容にも出来てとっても満足です。絵のテイストがもう少し増えるともっと嬉しいかなと思ったので星3つ。絵本のサイズが選べるのはうれしかったです！」(2015年10月23日)

(https://www.meonbook.com/single_review.php?review_id=206)

(5) <飲食店の口コミサイトで、ある寿司店について>

「これが日本のお寿司と思われたら悲しいかなと思います」(2015年7月24日)
(<http://tabelog.com/osaka/A2705/A270503/27063777/dt1rvwlst/7885218/>)

3. 違和感を感じさせる「のだ」の使用-「のかなと思います」

このような特徴ある用法を見せる「かなと思う」には、いわゆる説明のモダリティを表す「のだ」が「のか」という疑問形式をとり、終助詞「な／なあ」が付加された「のかな(あ)と思います」という形式も観察される。

(6) <太陽光発電の電力買い取り制限に>：太陽光発電の事業主（男性・30～40代）

「ここで計画を中止すると、東北地方の復興にも水を差すことになるのかなと思います。」（2014年10月15日「ニュース7」NHK）（鈴木(2015)(5)）

このような「～のかな」は、「のだ」の用法（田野村(2002)等）に即して考えれば、話者が「～」で提示される内容を「既定」の事態としてとらえており、何らかの背景事情や理由・根拠などとしてそれを新たに認識したという述べ方がなされていることになる。上記(6)の発言では、話者が電力買い取り制限の方針に困惑することの背景には、その方針が「東北地方の復興にも水を差す」ことになるという事情が既に定まった事態としてあることを、ここであらためて認識したということが表されていることになる。鈴木(2015)では、あくまで個人的な認識であるとする「かな」という形式をとりながら、そこに「のだ」による「既定性」を持ち出すことに志向性の矛盾が感じられるためか、このような例の中には、「のだ」の使用が唐突に感じられる場合があるという指摘がされている。

4. 自己防衛の柔らかな言語表現化「のかなと思います」

同様に、「のだ」の使用がやや唐突感や違和感を感じさせる「のかなと思います」として、以下のような例が採取できた²⁾。

(7) <沖縄米軍基地廃止を訴える抗議集会参加者へのインタビュー>：30代女性

「これ（事件による犠牲）がないと平和でいられないのは悲しいのかなあと」³⁾
（2016年6月25日「報道特集」TBS）

(8) <朝の連続テレビ小説への主演が決まった女優へのインタビュー>：20代女優

「(ヒロインと同様に自分も東京に上京したという経験をしていることから) 共感できるところはあるのかなあと思いますし」(2016年6月29日「ニュースウォッチ9」NHK)

(9) <社員・元社員による会社の口コミ評判サイトで、ある会社について>

「毎日が同じサイクルが多いのかなと思います。しかし私の仕事だけかもしれないので一概にはなにが悪いとかはないと思います。」（閲覧日：2016年7月3日）

(<https://en-hyouban.com/company/10012083862/kuchikomi/2132057/>)

このような「のかなと思います」の例において「のだ」の使用がやや唐突に感じられるのは、まず、「のだ」によって何に対する背景説明がなされているのかが読み取りにくいという点にあると思われる。メディア報道では、インタビュアーとのやりとりがすべて示

されるわけではなく、編集された回答コメントが断片的に示されることも多い。ウェブ上の書き込みでは、当該のスレッドで何が話題となっているかを遡って確認しなければ、「のだ」が何に対して背景事情を持ちだそうとしているのかはわかりにくい。しかしながら、「のだ」を使用せずとも自身の見解や感想を述べることは十分可能と思われる文脈で、話者はなぜ「かなと思う」ではなく「のかなと思います」という表現を用いるのだろうか。

そこには、自身の見解を個人的な思考結果として述べつつも、その事柄の既定性を基盤に、聞き手との間に擬似的な話題共有空間を構築するという表現意図があるのではないだろうか。自身の見解や感想には「かな」によって独話的な位置付けを与えつつ、「のだ」によってそれが一方的な発言ではなく、何らかの背景事情を述べようとしたものであるということが示される。「のだ」を用いることによって、背景事情を述べるべき話題がそこにあることがいわば後付け的に出現するという表現効果が観察されるのではないかと思われる。このように考えれば、このような「のだ」を含めた「のかなと思います」形式の使用も、対人コミュニケーションにおける一種の「自己防衛」の表現ではないかと考えられる。

注

- 1) 小野 (2001) の分析にしたがうと、「おもしろいと思う」ならば、「おもしろい」と考えるかどうかについて、例えば「おもしろいと思いませんか」のように聞き手とその思考内容を共有することが可能であるが、「おもしろいかなと思う」のように話し手自身の疑念を表明する形式を用いると、「?おもしろいかなと思いませんか」のように、聞き手とその思考内容を共有する形をとることができない。
- 2) 例(8)(9)は、「のではないか(と思う)」という話し手の見解を示す表現の使用が適切な文脈であろうと思われる。「のではないか」は、日本記述文法研究会 (2003:179-182) にしたがえば、話し手の判断が未成立ながらも一定の方向性を持っていることを表す形式である。
- 3) ここでは「と」に後接する動詞「思う」が省略された形となっている。

参考文献

- 小野正樹 (2001) 『ト思う』 述語文のコミュニケーション機能について 『日本語教育』 110号 pp. 22-31
- 鈴木智美 (2012) 「ニュース報道およびブログ等に見られる『～です』文の意味・機能-『～を徹底取材です』『～に期待です』『～をよろしくです』-」 『東京外国語大学論集』 第84号 pp. 341-357
- 鈴木智美 (2015) 「意見表明に用いられる『かなと思う』-対立・摩擦を避け内に向かう言葉」 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 第41号 pp. 61-78
- 田野村忠温 (2002) 『現代日本語の文法 I 「のだ」の意味と用法』 和泉書院
- 日本語記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語文法 4 第8部モダリティ』 くろしお出版
- 三宅和子 (2011) 『日本人の対人関係把握と配慮言語行動』 ひつじ書房